１１．タンポポＴ－１は血糖値を抑制する作用を認めた

臨床医学研究会　２００４年

神戸東洋医療学院　邵輝

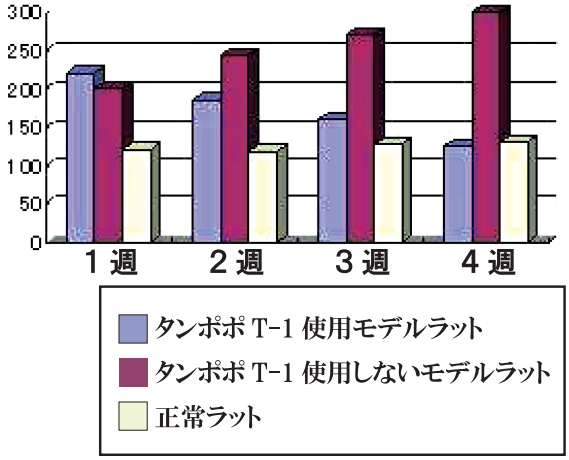
我々が行ったタンポポ T-1 の動物実験において、ラットにストレプトゾトシンを注射してラットの膵臓のインスリン分泌機能を破壊することにより糖尿病を発症させ、その後タンポポ T-1 を飲ませた。

モデルの血糖値平均は 4 週間で 200mg/dl から 125mg/dl になり有意な低下が見られ、ストレプトゾトシンを処置しないラットの血糖水準になった。

タンポポ T-1 を飲ませない組は、インスリンがないためラットの血糖値がどんどん上がり、4 週間後には 300mg/dl 近くにまで上昇した。失明や脱毛がおこり、数匹が死亡した。

この動物実験により、タンポポ T-1 に血糖値を下げる効果があることが科学的に証明された。

よって、インスリン分泌低下または分泌が見られない患者に対して効果が期待できる。また、慢性の高血糖状態に対して効果が期待できる。



【コメント】

インスリン分泌能力が無く、血糖値のコントロールが出来るという結果は、肝臓での糖代謝を改善していると推測できます。

１２．食後の血糖値上昇を抑制する

臨床医学研究会　２００４年

神戸東洋医療学院　邵輝　早川敏弘

健常な成人男女を 10 名ずつ、食後 30 分後にタンポポ T-1 を飲むグループと飲まないグループの 2 組に分けてそれぞれの血糖値を測定したところ、タンポポ T-1 の血糖値を下げる効果が証明された。

実験対象	測定血糖値の平均値
タンポポＴ－１を飲むグループ	１２０mg／dl
タンポポＴ－１を飲まないグループ	１３１mg／dl